

週報

令和 5 年 1 月 13 日

2022~2023年度 No.21

2022-23年度 国際ロータリーのテーマ



国際ロータリー会長 ジェニファー E. ジョーンズ

プログラム

S A A 有川 真史君

- ☆点 鐘
- ☆国歌斉唱「君が代」
- ☆ロータリーソング斉唱
「奉仕の理想」
- ☆四つのテスト唱和 職業奉仕委員会
- ☆食事懇談
- ☆会長の時間
- ☆幹事報告
- ☆委員会報告
 - ①親睦委員会
 - ・スマイルボックス報告
- ☆部内卓話
「職業奉仕月間卓話」
職業奉仕委員会 委員長 張本 民雄君
- ☆点 鐘

現在会員					30名				前々回の欠席者(12/16)				4名			
本 日	出席	19名	欠席	5名	免除(a)欠席	3名	免除(b)欠席	3名	出席率	79.17%						
	前々回	出席	15名	MU	4名	免除(a)MU	3名	免除(b)MU	4名	修正出席率	82.61%					
月別出席率%	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6				
	本年度	75.55	81.16	83.53	77.58	89.84	89.31									
	前年度	74.94	休会	休会	81.53	77.59	73.49	85.71	休会	70.49	69.74	70.51	77.60			

例会場 カンパーナホテル TEL(0959)72-8111
例 会 金曜日(12時30分~13時30分)
事 務 所 長崎県五島市末広町8-4
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 才 津 喜 彦
副 会 長 中 村 吉 廣
幹 事 西 上 裕 一郎
雑誌:会報委員長 寺 澤 信 義

会長の時間

会長 才津 喜彦君

皆様、こんにちは。それでは1月度第1例会21回目の会長の時間を始めます。

新年あけましておめでとうございます。2023年今年も宜しく願い致します。また、福江ロータリークラブ2022-2023年度会長としての任期あと半年。昨年同様引き続きお付き合いの程、宜しく願い致します。さて、皆様はお正月どのようにお過ごしになられたでしょうか？お得意様には大変ご迷惑をおかけしているかとは思いますが、私の会社は3年前から1月1日を定休日にしております。それまでは年中無休で営業しておりました。コロナウイルスの影響などもありますが、1番は仕事にメリハリをつけるために1月1日定休日を設けました。今までは出張等で島外に出る時以外休みはなく、特に夜の当番をしている母は、ほぼ365日19:00~1:30迄仕事をしている状態です。たった1日だけかと思われるのですが、うちの会社としては結構頑張った方だと思っています。今まで休みを取った事がなかったので、結局午前中駅伝見ながらゴロゴロして、昼から初詣に行き、気が付けば夕方になっており、晩飯食べて風呂に入って1日が終わるパターンが2年続き、さすがに今年はそれはやめようと思い、朝はいつもよりはゆっくりでしたが早めに起床し、福江川沿いを散歩し、自家用車を洗車し、家族と初売りに行き、昼から初詣に行き、その後家族でドライブにでも行く予定でしたが、年末に自家用車にガソリンを入れておらずドライブは断念しました。そのあとは例年通りのお正月になってしまいましたが、例年よりは何か清々しいお正月を過ごせたのではないかと考えております。来年の正月はしっかりとガソリンを満タンにしておき、家族をドライブに連れて行きたいと考えております。

それでは、こちらも引き続きお付き合い頂きたいと思っております。今週の「来たらおいしいイチオン馬」の前に、前回年末の有馬記念、推奨しました⑦エフフォーリア5着でした。レース展開は前回の週報に載せた通りの展開になりましたが、何より勝馬⑨イクイノックスが強すぎました。間違いなく、2023年日本競馬会の中心となる馬です。今後の活躍が期待されます。また、推奨した⑦エフフォーリア昨年の春先よりはいい走りをしたとは思いますが、全盛期の走りからするとまだまだ、次走2月12日京都記念（GⅡ芝2200m）に出走す

ることが決定しています。ここが試金石になると思いますが、現時点での私の予想は相当厳しいレースになるのではないかと考えられます。さて、今週は1月14日（土）中京競馬場で開催される愛知杯（GⅢ芝2000m）からです。今回推奨する馬は⑬アイコンテラーです（9番人気想定オッズ34.9倍）。愛知杯は4歳以上牝馬限定のハンデキャップレースです。何せこのレースは荒れるレースとして有名なレースで、ここ10年で3連単馬券が5万を切った事が1回（¥40,420）。2013年には3連単470万馬券も出ております。1番人気の馬も、ここ5年勝っていませんし、1番人気が高かった2017年も2着10番人気・3着6番人気で12万馬券です。今回推奨した⑬アイコンテラーの父ドゥラメンテはキングカメハメハ産駒で、このレースでよく走ると言われております。他にもキンカメ産駒の馬はおりますが、⑬アイコンテラー前走同競馬場同コース牡馬との混合戦で10番人気ながら3着と好走しており、今回斤量が1キロ増えますが全体から見れば軽ハンデ、牝馬限定戦となれば推奨する価値は◎、今回は自信をもって⑬アイコンテラーを推奨致します。以上で会長の時間を終わります。

幹事報告

幹事 西上裕一郎君

【当クラブ関係】

- 第7回定例理事会
 - ・本日の例会終了後開催
- クラブ協議会について
 - ・次週1月20日第4回クラブ協議会
 - ・次々週1月27日第5回クラブ協議会
上半期の報告と下半期の計画の発表。
各理事・委員長は準備をお願いします。
当日欠席される場合は、代理の方による発表をお願いします。

【地区関係】

- 長崎北RC・長崎東RCより
 - ・例会変更のお知らせ
- 長崎南RCより
 - ・IMパンフレット（メールボックスへお配りしています）

【地区以外ロータリークラブ関係】

- 国際ロータリー日本事務局経理室より

- 2023年1月のロータリーレート
1ドル132円
- 「ロータリー」誌（英語版）
- 一般財団法人フィリピン育英会より
• 2021年度事業報告書と基金への寄付のお願い

委員会報告

出席報告

- ◆ 1月13日（免除(a)欠席者）
中村 博義君 植松 郁雄君 釜崎 洋君
- ◆ 1月13日（免除(b)欠席者）
谷川 和啓君 佐々野邦久君 清瀧 誠司君
- ◆ 1月13日欠席者
中村 栄治君 藤川 博士君 森田 大輔君
坂井 成光君 小畑 和男君

親睦委員会

スマイル報告

- ◇ 清瀧 智枝様 新年おめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。早速ではございますが昨年の暮には私共夫婦の結婚五十五周年のお祝いの品と、更に重ねて主人には在籍三十五年の記念品を御恵贈下さり誠に有難うございました。スマイルに御利用戴きたく心ばかり同封致します。宜しくお取り計い下さいませ。追一クラブの出席は二月中旬より出席予定しております様です。宜しく願い申し上げます。
- ◇ 張本 民雄君 本日は卓話します。御静聴よろしく申し上げます。
- ◇ 才津 喜彦君 明けましておめでとうございます。本年も楽しくRC活動を楽しみましょう。
- ◇ 中村 吉廣君 //
- ◇ 西上裕一郎君 //
- ◇ 戸田 博之君 //
- ◇ 山下 実君 //
- ◇ 片山 雅文君 //
- ◇ 神之浦文彦君 //

- ◇ 宮本 光藏君 //
 - ◇ 吉田 泰之君 張本民雄さん、本日の卓話よろしく申し上げます。
 - ◇ 柳田 靖夫君 //
 - ◇ 山里 一郎君 //
 - ◇ 平村 和弘君 //
 - ◇ 松岡 孝博君 //
 - ◇ 山下 克己君 //
 - ◇ 橋本 武敏君 //
 - ◇ 三村 剛孝君 //
 - ◇ 寺澤 信義君 //
 - ◇ 有川 真史君 //
- 合計 22,000円
通算合計 437,000円

部内卓話

「職業奉仕月間卓話」

職業奉仕委員会
委員長 張本 民雄君



皆様こんにちは・・・そして、新年明けましておめでとうございます。

1月はロータリー職業奉仕強化月間ですので、本日は職業奉仕委員長として、卓話をさせていただきます。

皆様ご存じのことと思いますが、最近、ロータリーには「基本三原則」と言われているものがあります。それは、一つ目が「ロータリーの目的」、二つ目が「四つのテスト」、そして「ロータリアンの行動規範」が三つ目となります。この三つは全て職業奉仕に関係していますが、本日は、その中で「四つのテスト」を取り上げてみたいと思います。

私達のクラブでは、毎週の例会時に「四つのテスト」を唱和、斉唱しておりますが、この文言は「ロータリーの職業奉仕の金言」と言われています。それではまず、その歴史・起源を紐解いていきたいと思ひます。

この四つのテストの創案者は、ハーバート J. テーラーといます。彼は、1893年に米国ミシガン州に生まれました。イリノイ州エバンストンのノースウェスタン大学を苦学の末卒業・・・YMCA および英国陸軍福祉機関の任務でフランスに渡り、第1次世界大戦では米国海軍の補給部隊員として従軍しました。1919年にグロリア・フォーブリックさんと結婚して、米国オクラホマ州に新居を構え、同地でシンクレア石油会社に勤務しました。彼は1年後に同社を退社し、保険・不動産・石油リース仲介業を始めます。数年に及ぶこの事業でいささかの成功を収め、1925年にイリノイ州に戻り、シカゴのジュエル・ティー社に入社・・・とんとん拍子に昇進し、そしてシカゴロータリークラブの会員となりました。

1932年、ジュエル・ティー社の次期社長候補であった彼は、破産寸前状態にあったシカゴのクラブ・アルミニウム社の再建を依頼されました。調理器具メーカーの同社は、総資産額を40万ドル上回る負債を抱え倒産の瀬戸際にありましたが、彼はこの難事業を引き受け、危機に瀕した同社に自らの運命を託したのです。彼はジュエル社を辞め、これまでの給与の8割減という収入で、クラブ・アルミニウム社の社長に就任しました。しかもそのうえ、運営資金に充てるため自己資金6,100ドルを同社に投資したのです。信仰心の厚い彼は同社を建て直し、大恐慌下の沈滞ムードを払拭するための手段として、社員たちに倫理的価値観の目安となる簡潔な指針を提供すべく、神の啓示を求めて祈りをささげました。

会社の倫理訓について構想をめぐらせた彼は、最初およそ100語からなる文章をしたためましたが、これは長すぎると判断しました。そこでさらに推敲を重ね、それを7つの項目にまとめたのです。四つのテストは、当初は七つのテストでした。しかし、これでも長いと考えた彼は、それを自問形式の4項目にまとめ上げ、それが今日の四つのテストとなりました。

次に彼は、できあがった項目を会社の4部門の責任者にはかりました。その4人はローマカトリック信者、クリスチャンサイエンティスト、正統派ユダヤ教徒、長老派教会員という宗教の違う人たちでした。検討してもらった結果、「四つのテストが自分たちの宗教上の教義に反しないばかりか、私生活ならびに職業人としての生活の模範的指針になるものである」ということで、意見の一致を見ました。このようにして、「言行はこれに照らしてから」の四つのテストが誕生したのです。真

実かどうか、みんなに公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるかどうか、簡潔さの中に深い意味を包含するこのテストは、事の大小にかかわらず、クラブ・アルミニウム社が諸事決定を下す際の基本となりました。

しかし、テストというものはどんなものであれ、実際に検証される必要があります。実社会でうまくいくだろうか？事業家はその指針に従って仕事をこなしていけるだろうか？多くの不安がありました。ある弁護士は、彼にこういったそうです。

「もし私がこのテストを厳密に実行したら、私は飢え死にするでしょう。ビジネスに関していえば、四つのテストは絶対に実行不可能です」・・・と。

この弁護士の懸念も、わからないではありません。他者の利益を最優先に考えて真理を実践し、行動評価を行うよう求める倫理システムは、どんなものであれ大きな負担を伴います。そのようなテストは、誠実さと野望のバランスを取るのに腐心している人たちにとっては、苦痛に満ちた葛藤を与えることにもなります。

一つの生活様式として、それを現実的に実行できるかどうかをめぐって、世界中で熱い議論が戦われてきました。懐疑深く、消極的な考え方しかできない人たちはさておき、ロータリアンの中にも、「四つのテストは極度に単純化された哲学であって、その有用性は疑わしく、相矛盾する趣旨からなっており、目標は非現実的である」と、真剣に考えている人たちが常に存在しています。このテストは、自らの動機と目標を思慮深く検討するよう求めるもので、真実、公平さ、思いやりに対する強調は、道徳的要素を多く含有しているため、「倫理的消化不良」を起こしてしまう人たちも確かにいます。

しかし、事実、1930年代のクラブ・アルミニウム社においては、あらゆることが、この四つのテストに照らして判断されたのです。まず、広告に対してそれは適用されました。「より良い」とか「最上の」とか、あるいは「最高の」や「最高級の」といった表現が広告から削られ、製品に関する事実に基づいた説明文が載せられることになりました。又、ライバル会社への非難、悪口は、広告や販売推進パンフレットから姿を消しました。そして四つのテストは、徐々に同社のあらゆる面における指針となっていく、ディーラーや顧客、そして従業員の間にも、同社に対する信頼と好意が生まれることになりました。

四つのテストは社風の一部となり、やがてクラ

ブ・アルミニウム社に対する信望は高まり、財政の改善に寄与することとなったのです。

そんなある日のこと、販売部長が調理器具5万点の注文が取れるかもしれないと発表しました。売り上げは低迷状態にあり、会社は依然として倒産の危機から脱していませんでした。最高幹部の人たちは、明らかにこの販売の機会を逃すことなく、商談が成立することを望んでいました。しかし、そうなるためには一つの問題点がありました。販売部長が聞いたところでは、注文主である業者は商品を値引きして販売したいというのです。「これを認めたら、これまでわが社の製品を地道に宣伝し、販促してきてくれたディーラーに対して不公平となります」というのが、販売部長の意見でした。

結局、この注文は断ることになりました。その年には、ほかにもいくつかの厳しい決断が下されましたが、これはその中でも最も苦渋に満ちた決断の一つでした。しかし、この取引を行ってれば疑う余地もなく、同社が営業活動のよりどころとする四つのテストを嘲笑することになったことでしょう。

1937年までに同社の負債は完済され、その後の15年間では、株主に対して100万ドル以上もの配当が支払われました。また、同社の純資産は200万ドル以上に達したそうです。

四つのテストは、ビジネスという厳しく変転きわまりない世界で生まれ、経済界が経験した最も過酷な大恐慌という大不況の中で、厳密な試験を経てきたのです。それは、実業界という競争の場で生き残ってきたものなのです。1942年、当時の国際ロータリー理事のリチャード・ベナー氏が、ロータリーもこのテストを取り入れるべきだとの提案をしました。R I 理事会は、1943年1月にベナー氏の提案を承認し、四つのテストを職業奉仕プログラムの一つの構成要素としました。もっとも、このテストは今日では職業奉仕だけでなく、五大奉仕部門のすべてにおける不可欠の要素として認識されています。

ハーバート・テラーは、ロータリーの創立50周年記念にあたる1954年～55年度、R I 会長に就任した時、四つのテストの著作権をR I に移譲しています。1930年代に誕生して以来、90年以上の歳月が過ぎ去ったこの現代社会では、ある人たちが批判するように、四つのテストはその有効性を喪失してしまっているのでしょうか？それとも、変化のテンポの速いこの時代においても、事業や専門職に携わる人たちの指針として、機能するに

足る洗練さを保持しているのでしょうか？

ここで、四つのテストの内容を考えてみたいと思います。

真実かどうか。あなたがしようとしていることは“天”に恥じることのない、真実を生む考えに基づくことですか？（虚偽広告はもとより誇大広告ではありませんか？）

真実是不変であり、時代を超越するものです。真実は正義なくしては存在し得ません。

みんなに公平か。あなたがしようとしていることは“大地”のように真っ平らな、公正な結果を生む考えに基づくことですか？（同業者を誹謗したり、賄賂を行使したり、同業者を出し抜いたり、特別の人だけに特別価格で販売したり、同業者共存共栄の理念に反することではありませんか？）

顔を突き合わせてとは言わないまでも、腕を伸ばせば届くような所で、激しくやり合うビジネス手法に代わり、公平さを取り入れたビジネスは、お互いの関係を傷つけるよりも、その関係向上に役立ってきました。

好意と友情を深めるか。あなたがしようとしていることは、関わりのある全ての“人”の信用と友情、喜びを獲得できる考えに基づくことですか？（商機に応じて、顧客を泣かすような不適正価格を設定していませんか？）

人は生まれながらにして、他者と協力して生きていく存在であり、愛情を示すことは生来備わっている本能です。

みんなのためになるかどうか。あなたがしようとしていることは、関わりのある全ての人がいろんな意味で“利益”を得ることが出来る考えに基づくことですか？

この項目は、食うか食われるかを原則とする無慈悲な競争を排除するものであり、それに代わって建設的で創造的な競争を導入するものです。

四つのテストは、100ヶ国以上の言語に翻訳され、国家という枠を超えたものであり、国境や言葉の障壁を超越するものです。そこには、政治・独断、そして特定の信条は介在しません。一つの倫理規範としての存在以上である四つのテストは、いかなる形であれ、人生を成功に導くための要素を含み持っています。それは今日の社会でも有効性を保持し、かつ実効性のあるものなのです。そして、最終的なテストは実際に行動することにあります。著名な心理学者であるウィリアム・ジェームズは、「真実が意味するところの究極的なテストは、それが指示あるいは示唆する行動である」と、言っています。

今日のロータリーの中核には、倫理的卓越性を使命とする四つのテストが存在します。人類は、共に繁栄することができるのです。現代のビジネスは、誠実かつ信頼のおけるものであり得るし、人々は、お互いを信じ合うようになれるものなのです。そして、四つのテストは四つに区切られています。英語の原文を見ると「The Four-way test」と、複数形ではなく単数形で書かれています。事業の繁栄を導くためには、四つの基準を一つずつクリアするのではなく、四つをまとめて一つの基準として考えなければなりません。

つまり、ロータリアンの言行は「この四つの問いの全てに『イエス』と、答えられるものでなければならない」という事になります。私たちは、「四つのテスト」を通して他人を見るのではなく、自分自身の考え、意見、行動を考えるべきです。

このテストは、私たちが自分自身について判断するための鏡であって、他人を判断するための窓にしてはいけません。考えをどう評価するかということより、お互いにどのように接するかということ。「四つのテスト」は語っているのだと思います。どうぞ皆様方、ご自分の言行を今一度ご一考いただき、四つのテストの実践をお願い致します。

本日はご静聴いただきまして、誠に有り難うございました。